

福山北ロータリークラブ 地域福祉の現場で例会 施設利用者の声に学ぶ



高齢者の声を聞いた

理者があいさつ。「認知症でも一人暮らしをしたい人はいるが、火事の危険性が高いなどの理由で、住民や家族の理解が得づらいのが現状。本人の意思を損なわないために、我々は生活全般をサポートしている。多くの人に認知症について知識を得てもらい、高齢者も安心して生活できる地域社会を築きたい」とした。

福山北ロータリークラブ(西川隆夫会長)は2月24日、NPO法人地域の絆が運営する小規模多機能型居宅介護事業所「地域福祉センター北吉津」(福山市北吉津町三―二―四二)で職場例会を行った。同クラブ会員の職場で例会を催す取り組みで、二年前から「認知症サポーター養成講座」などを学ぶメンバーが同センターの利用者の生の声に耳を傾けた。

はじめに、同NPO運営の「地域福祉センター仁伍」(福山市木之庄町)・高木英明管

続いて施設利用者の三人から話を聞いた。浄土真宗西本願寺派僧侶の資格を持つ喜多村保さんは「この中に戦争経験のある人はいないだろう。私は生身が生身を殺し合う戦場で戦ってきた。現在、両耳はほとんど聞こえないが不思議と声は出る。これからも世の中の役に立ちたいという思いを持ち続けて頑張る」と語った。

元校長の細井裕昭さんは「退職後も書道の指導に力を注いできた。このような大勢の人が集まる場で話す機会を得て、感謝している」と力強

く話した。

視覚障害を持つ中川永枝さんは地域福祉センター仁伍の利用者でありながら、同センターで利用者に施術を行う現役のマッサージ師。昨年の熊本地震の際は、現地に駆け付けてボランティアで施術を行った実績もある。



高木英明管理者



喜多村保さん



細井裕昭さん



中川永枝さん

「センターのスタッフに支えられて今の自分がある。視覚障害など挫折多き人生だが、これからも前向きに生活したい」と宣言した。

「『利用者の人間としての尊厳を守る』ことを理念に掲げている。どんな暮らしを望むのかという、一人一人の自己決定の権利を尊重したい」と高木管理者。「誰もが住みよい地域づくりを進めるには、住民の思いやりや、ちょっとした声掛けが大切」と訴えていた。▽問 地域福祉センター北吉津 ☎084・961・3391▽同センター仁伍 ☎084・973・0832